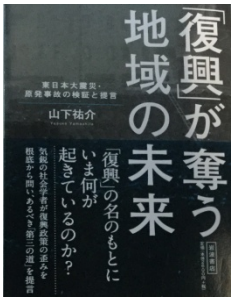
# 「復興」が奪う地域の未来




副題は「東日本大震災・原発事故の検証と提言」。岩波書店から2017年2月刊行。著者は社会学者の山下祐介さん。これまでも多くの著書・論文を読んできた。こうして、一冊にまとめられた著書をじっくりと読み、大いに刺激をうけた。

表紙カバー裏から―広範囲に甚大な被害をもたらした東日本大震災・福島原発事故。その被害からの回復を目指すはずの復興政策により、被災地に深刻な歪みが生じている。津波被災地では巨大すぎる防災施設が沿岸のくらしを踏み潰し、福島の原発避難地域では早期帰還一辺倒の政策が避難者を追いつめ、危険自治体の出現が迫っている。なぜ復興政策は隘路に陥ったのか。気鋭の社会学者が復興の推移と現状を鋭く検証し、人間のための復興を提言する。

とりあえず、「目次」だけでも紹介しておきたい。

序章 東日本大震災・原発事故とこの国のゆくえ

第Ⅰ部　東京のための復興か、東北のための復興か

―　広域システム災害のなかで　一年目の問い

第１章　東北発の復興論へ―再生はどこからはじまるのか

第２章　原発避難の実像―避難からセカンドタウン、そして故郷再生へ

第３章　震災をめぐる東京と東北―〈擬似原発〉論

第Ⅱ部　帰還政策の形成は何を意味するのか

―　原発避難問題の忘却と不理解　二年目の問い

第４章　新たな「安全神話」とナショナリズムの形成

第５章　市民社会不在の復興？―阪神・淡路大震災から東日本大震災へ

第６章　「帰る」「帰らない」をめぐる住民と自治体

―帰還政策がもたらす葛藤と危険自治体の可能性

第Ⅲ部　復興を阻害する復興政策　―　「第三の道」を求めて　三年目の問い

第７章　コミュニティ災害からの復興と政策

―防災至上主義と復興至上主義はいかに形成されたか？

第８章　隘路に入った復興から、第三の道へ

第９章　原発避難者は、「今は帰れない」と声を上げていい

―帰還政策が推進される社会心理学的構造

終章 東日本大震災の復興政策は失敗である―人間のための復興を求めて

（2017年4月22日）